

## 株式会社「丹波西山」 代表取締役

## 西山和人さん

## 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

周囲を山に囲まれた綾部市小畑町で、水稲生産に取り組み「株式会社丹波西山」代表取締役の西山和人さん(35)。「自信を持って安全な米を消費者にお届けし、作り手の顔が見える米作りをしていきたい」と話す。

亡くなった父の後を継いで、本格的に米作りの世界に入ったのは26歳の時。農業経営を学んでいたわけでもなく、不安でいっぱいだったが、JA京都にのくにの地域農業の担い手に出向くJA担当者(愛称TACIIタック)や先輩たちの支援を受け、何とか稲作を続けてきた。

そんな時、親戚の公認会計士から農業経営診断を受ける機会が

あった。経営の現状や自身が描く将来展望などを話し合い、「法人化して、そのメリットを最大限に生かしたらやっていける」と後押しを受けた。周囲の先輩法人の経営者にも相談し、弟の秀人さん(33)も参加して2012年に同社を設立した。

西山さんには、強い信念を持って取り組んでいることがある。父が「自分の子ども、家族に安全な米を食べさせたい。全てのお客さまに、家族と同じ米を食べていた

だきたい」と語っていたことだ。父が取り組んできた農業、化学肥料を控えた栽培方法を引継いだ。2007年に、府内で2人目となる有機JAS認定を取得した。

現在も、より安全な米作りには余念がない。自社でライスセンターを設けて色彩選別機を導入し、さらに磨きをかけて「丹波西山ブランド」にとことんこだわり、取引先の信頼を築いてきた。ライスセンターから排出されるもみ殻はすりつぶし、圧縮成型して固形燃料に加工。まきストーブなどの燃料として地元ホームセンターなどへ出荷する。処分にも困っていたもみ殻の活用として注目されている。



▶こだわりの米を生産し続ける西山さん

## 父の農業 兄弟で継承

西山さんは「地元の先輩農家や地域住民、JAの皆さんに支えられ、経営面積も当初目標としてきた20畝まで拡大することができた。兄弟二人三脚で頑張ってきたことが大きい。今後も安全にこだわった米作りで、周りの人に喜んでもらえる経営をしていきたい」と話す。

■法人所在地 綾部市小畑町原員59。(電)0773(47)0576。

■法人概要 2012年9月設立。西山和人さんが代表取締役、弟の秀人さんが取締役、従業員1人、パートタイマー1人。経営面積 20畝(酒造好適米「祝」「五百万石」「山田錦」、加工用米「京の輝き」「日本晴」「旭4号」を12畝、食用米「コシヒカリ」「ミルキークイーン」を7畝、転作で小豆「大納言」を2畝、その他に有機野菜栽培)。農業機械 トラクター3台(25馬力、50馬力、65馬力、各1台)、コンバイン1台、米乾燥機(65石2台、35石1台、27石1台)、色彩選別機1台、モミガライト製造機「グラインドミル」1台。